

# 大齋節 夕の礼拝と黙想



	第一日課	詩編	第二日課	聖歌
大齋1 2月21日	ダニ 9:3-10	103	マコ 2:18-22	129 378
大齋2 2月28日	創 41:14-45	8 84	マコ 3:31-4:9	38 477
大齋3 3月7日	創 44:1-17	34	マコ 5:1-20	128 484
大齋4 3月14日	創 48:8-22	19 46	マコ 8:11-21	267 24
大齋5 3月21日	出 3:16-4:12	145	マコ 8:31-9:1	429 32

2021

聖アンデレ教会

## 大齋節 夕の礼拝と黙想

毎日聖書を朗読し、詩編を歌って神をほめたたえ、祈りを献げて日々の生活を神と人のために清めることは、初代教会からの営みであった。わたしたちも「朝の礼拝」「夕の礼拝」によってこの営みに加わるのである。

式の始めと終わりに聖歌を用いてもよい。

### せい ことば \* 聖 語

一同立つ。

司式者 <sup>せいしょ</sup> 聖書 <sup>ことば</sup>のみ <sup>き</sup>言葉を <sup>れいはい</sup>聞いて、<sup>はじ</sup>礼拝を始めましょう

ここで司式者は、聖語（祈祷書 46 ページ以下）を教会暦に応じて、または自由に選んで言う。聖書の中のほかの聖句を用いてもよい。

### ざんげ ゆる いの \* 懺悔と赦しの祈り

司式者 <sup>かみ</sup> 神のみ <sup>まえ</sup>前に <sup>みずか</sup>ひざまずいて、<sup>かえり</sup>自らを <sup>つみ</sup>省み、<sup>ゆる</sup>ともに罪の赦  
<sup>いの</sup>しを祈りましょう

ここで一同ひざまずく。

共同懺悔（17 ページ／祈祷書 295 ページ）を用いるときは、ここです。

### きょうどうざんげ 共 同 懺 悔

司式者 <sup>ちち</sup> 父なる <sup>かみ</sup>神よ

会衆 <sup>あわ</sup> 憐れみをお <sup>あた</sup>与えください

司式者 <sup>こ</sup> 子なる <sup>かみ</sup>神よ

会衆 <sup>あわ</sup> 憐れみをお <sup>あた</sup>与えください

司式者 <sup>せいらい</sup> 聖霊なる <sup>かみ</sup>神よ

会衆 <sup>あわ</sup> 憐れみをお <sup>あた</sup>与えください

司式者 <sup>せい</sup> 聖なる <sup>さんい</sup> 三位 <sup>いったい</sup> 一体の <sup>かみ</sup> 神よ

会衆 <sup>あわ</sup> 憐れみ <sup>あた</sup> をお与えください

司式者 <sup>さいしょ</sup> 最初の <sup>あい</sup> 愛から <sup>はな</sup> 離れ、<sup>かみ</sup> 神と <sup>ひと</sup> 人とを <sup>あい</sup> 愛する <sup>ねっしん</sup> のに熱心で <sup>な</sup> なかったことを

(黙示録 2:4)

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 <sup>こころ</sup> 心を <sup>ひと</sup> 一つに <sup>おこた</sup> することを <sup>きょうりよく</sup> 怠り、<sup>か</sup> 協力を <sup>な</sup> 欠いていたことを

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 <sup>しゅ</sup> 主に <sup>つか</sup> 仕える <sup>ねが</sup> ことを <sup>こころ</sup> 願い <sup>そむ</sup> ながらも、<sup>しゅうかん</sup> み心に <sup>ま</sup> 背く <sup>こ</sup> 習慣に <sup>しんこう</sup> 巻き込まれ、<sup>しんこう</sup> 信仰 <sup>たいど</sup> の <sup>ふたし</sup> 態度が <sup>な</sup> 不確かであったことを (黙示録 2:14-16)

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 <sup>おお</sup> 多くの <sup>きょうだい</sup> 兄弟 <sup>しんこう</sup> 姉妹が <sup>まじ</sup> 信仰の <sup>うしな</sup> 交わりを <sup>み</sup> 失っている <sup>す</sup> のを見 <sup>な</sup> 見過ごしに <sup>して</sup> いる <sup>な</sup> ことを

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 <sup>せんれい</sup> しばしば <sup>やくそく</sup> 洗礼の <sup>そむ</sup> 約束に <sup>しんこう</sup> 背き、<sup>しゅ</sup> 信仰を <sup>めぐ</sup> もって <sup>つみ</sup> 主の <sup>よ</sup> 恵みに <sup>な</sup> こたえず、<sup>な</sup> 罪と <sup>よ</sup> 世 <sup>あくま</sup> と <sup>たたか</sup> 悪魔との <sup>どりよく</sup> 戦いに <sup>な</sup> 努力 <sup>な</sup> しなかったことを

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 <sup>しんこう</sup> 信仰に <sup>きび</sup> 厳しさを <sup>か</sup> 欠き、<sup>しゅ</sup> まことに <sup>のぞ</sup> 主を <sup>こころ</sup> 待ち望む <sup>とほ</sup> 心の <sup>な</sup> 乏しい <sup>な</sup> ことを (黙示録 3:3,16)

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 <sup>しゅ</sup> まことの <sup>しん</sup> 主を <sup>めいしん</sup> 信じ <sup>ひとびと</sup> ないで <sup>みちび</sup> 迷信の <sup>な</sup> うちにある <sup>な</sup> 人々を、<sup>な</sup> 導 <sup>な</sup> かな <sup>な</sup> なかった <sup>な</sup> ことを

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 <sup>ふひんこう おうこう</sup> 不品行が横行し、<sup>じ こちゆうしん きんせん</sup> 自己中心で金銭を<sup>あい</sup> 愛し、<sup>かいらく</sup> 快樂を<sup>もの おお</sup> むさぼる者が多い  
社会を見<sup>しかい</sup> 過<sup>み</sup> ごしにしていることを

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 わたしたちがしてきた<sup>おお</sup> 多くの<sup>あやま</sup> 誤り、<sup>にんげん ひつよう</sup> すなわち人間の必要、<sup>まず</sup> 貧しさ、<sup>くる</sup> 苦し  
みに目<sup>め</sup> を<sup>ふさぎ</sup> ふさぎ、<sup>ふせい</sup> 不正と<sup>ざんこく</sup> 残酷さに<sup>むかんしん</sup> 無関心であったことを (マタイ 25:41)

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 わたしたちが<sup>とな</sup> 隣りに<sup>びと</sup> 人に対して<sup>たい</sup> 誤<sup>あやま</sup> った<sup>はんだん</sup> 判断をし、<sup>あいじょう</sup> 愛情のない<sup>おも</sup> 思いを<sup>いだ</sup> 抱き、  
境<sup>きやうぐう</sup> 遇の<sup>ちが</sup> 違う<sup>ひと</sup> 人びとに対して<sup>たい</sup> 偏見<sup>へんけん</sup> を<sup>も</sup> 持ち、<sup>さべつ</sup> 差別していることを (ヤコブ 2:4)

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 <sup>しゅ</sup> 主に<sup>ゆる</sup> 赦されていることを<sup>わす</sup> 忘れ、<sup>ひと</sup> しばしば<sup>ゆる</sup> 人を赦さないでいることを

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

司式者 このほか<sup>き</sup> 気がつかないでいる<sup>おお</sup> 多くの<sup>つみ</sup> 罪を

会衆 <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>ゆる</sup> お赦してください

しばらく自らを省みたのち、一同で唱える。

<sup>あわ</sup> 憐れみ<sup>ふか</sup> 深い<sup>ちち</sup> 父なる<sup>かみ</sup> 神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければな  
らないことを<sup>おも</sup> せず、<sup>ことば</sup> 思いと、<sup>おこな</sup> 言葉と、<sup>おお</sup> 行いによって、<sup>つみ</sup> 多くの罪を<sup>おか</sup> 犯しています。  
どうか<sup>つみぶか</sup> 罪<sup>ゆる</sup> 深いわたしたちをお赦してください。新<sup>あた</sup> しい<sup>いのち</sup> 命に<sup>あゆ</sup> 歩み、<sup>こころ</sup> み心に<sup>したが</sup> 従  
い、<sup>さか</sup> み栄えを<sup>あらわ</sup> 現すことができますように、<sup>すく</sup> 救い<sup>ぬし</sup> 主イエス・キリストによってお  
ねが  
願いいたします アーメン

一同立ち、次の唱和を歌いまたは唱える。

司式者 <sup>しゅ</sup>主よ、わたしたちの口を開いてください

会衆 <sup>しゅ ほま あらわ</sup>わたしたちは、主の誉れを現します (詩 51:15)

司式者 <sup>えいこう ちち こ せいれい</sup>栄光は、父と子と聖霊に

会衆 <sup>はじ いま よよ かぎ</sup>初めのように、今も、世々に限りなく アーメン

司式者 <sup>しゅ</sup>主をほめたたえましょう

会衆 <sup>しゅ な</sup>主のみ名をたたえます

## し へん 詩 編

ここで定められた詩編を歌いまたは唱える。一編終わるごとに栄光の歌をともに歌いまたは唱える。

だい につか きゅうやくせいしよ きゅうやくせいしよぞくへん  
第1日課 (旧約聖書または旧約聖書続編)

朗読の前に「——(書)第——章——節から」と言い、朗読後「第1日課を終わります」と言う。次に司式者は「今聞いたみ言葉について黙想しましょう」と言って黙想の時をおいてもよい。

続いて一同立ち、マリヤの賛歌を歌いまたは唱える。

この歌の前に、その日にふさわしい聖歌を用いてもよい。

## 聖歌

さんか  
マリヤの賛歌 (ルカ 1:46-55)

1 <sup>たましい しゅ</sup>わたしの魂は主をあがめ // <sup>れい すく ぬし</sup>わたしの霊は救い主である

<sup>かみ よろこ</sup>神を喜びたたえる

2 <sup>かみ まず おんな め と</sup>神はこの貧しい女にも // 目を留められた

- いま のち よ ひと さいわ おんな よ  
 3 今から後いつの世の人も // わたしを 幸いな女と呼ぶ
- ちから かた いたい わざ  
 4 力ある方が // わたしに偉大なみ業をなされたから
- しゅ な せい あわ よよ しゅ うやま おそ ひと  
 5 主のみ名は聖 // その憐れみは世々、主を 敬い畏れる人に
- しゅ うで ちから ふ おも あ もの う ち  
 6 主はみ腕の力を振るい // 思い上がる者を打ち散らし
- けんりよく ふ もの ざ お みぶん ひく ひと ひ あ  
 7 権力を振るう者とその座から下ろし // 身分の低い人を引き上げ
- う ひと よ もの み と ひと お かえ  
 8 飢えた人を良い物で満たし // 富んでいる人をむなしく追い返される
- かみ ふ そ しそん えいえん やくそく  
 9 神は父祖アブラハムとその子孫に // 永遠に約束されたように
- あわ わす しもべ たす  
 10 憐れみを忘れず // 僕イスラエルを助けられた
- えいこう ちち こ せいれい  
 栄光は // 父と子と聖霊に
- はじ いま よよ かぎ  
 初めのように、今も // 世々に限りなく アーメン

だい につか しんやくせいしょ  
**第2日課 (新約聖書)**

朗読の前後は、第1日課のときにならう。

次に一同立ち、シメオンの賛歌または詩編第67編を歌いまたは唱える。

さんか  
**シメオンの賛歌 (ルカ 2:29-32)**

- しゅ いま ことば しもべ やす さ  
 1 主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおり // 僕を安らかに去ら
- せてくださる
- め しゅ すく み  
 2 わたしはこの目で // 主の救いを見た
- しゅ ばんみん そな すく  
 3 これは主が // 万民のために備えられた救い
- ひと てら ひかり たみ えいこう  
 4 すべての人を照らす光 // み民イスラエルの栄光

えいこう      ちち      こ      せいれい  
栄光は// 父と子と聖霊に

はじ                      いま                      よよ      かぎ  
初めのように、今も// 世々に限りなく アーメン

しへん  
**詩編 第67編 (1-3)**

- かみ                      めぐ      しゆく                      かお      ひかり      て  
1 神よ、わたしたちを恵み 祝し// み顔の 光 を照らしてください
- みち      せかい      し                      すく                      くに      し  
2 あなたの道が世界に知られ// 救いがすべての国に知られるように
- かみ      しょこく      たみ                      たみ  
3 神よ、諸国の民があなたをたたえ// すべての民があなたをたたえるように
- えいこう      ちち      こ      せいれい  
栄光は// 父と子と聖霊に
- はじ                      いま                      よよ      かぎ  
初めのように、今も// 世々に限りなく アーメン

**\*メッセージと黙想**

一同立って、使徒信経を歌いまたは唱える。

し   と   しん   きょう  
**使 徒 信 経**

てんち   つく   ぬし   ぜんのう   ちち                      かみ   しん  
わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

ひと   ご                      しゅ                      しん                      しゅ      せいれい  
また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。主は聖霊によ

やど                      う                      くる                      う  
って宿り、おとめマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、

じゅうじか                      し      ほうむ                      くだ      みつかめ      しにん  
十字架につけられ、死んで 葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみ

てん   のぼ                      ぜんのう   ちち                      かみ      みぎ      ざ  
がえり、天に昇られました。そして全能の父である神の右に座しておられます。

しゅ   い                      ひと   し      ひと                      さば                      こ  
そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、<sup>せいれい しん</sup>聖霊を信じます。<sup>せい こうかい せいと まじ</sup>聖なる公会、<sup>つみ ゆる からだ</sup>聖徒の交わり、<sup>えいえん いのち しん</sup>罪の赦し、<sup>からだ</sup>体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

## いの 祈 り

一同ひざまずく。以下、特祷までを歌いまたは唱える。

司式者 <sup>しゅ あわ あた</sup>主よ、<sup>あわ あた</sup>憐れみをお与えください

会衆 <sup>あわ あた</sup>キリストよ、<sup>あわ あた</sup>憐れみをお与えください

司式者 <sup>しゅ あわ あた</sup>主よ、<sup>あわ あた</sup>憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

<sup>てん</sup>天におられるわたしたちの父よ、<sup>ちち</sup>

<sup>な せい</sup>み名が聖とされますように。

<sup>くに</sup>み国がきますように。

<sup>てん おこな</sup>みこころが天に <sup>ち おこな</sup>行われるとおり地にも <sup>ち おこな</sup>行われますように。

<sup>ひ</sup>わたしたちの日ごとの<sup>かて きょう</sup>糧を<sup>あた</sup>今日もお与えください。

<sup>つみ</sup>わたしたちの罪をおゆるしください。<sup>ひと</sup>わたしたちも人をゆるします。

<sup>ゆうわく</sup>わたしたちを誘惑におちいらせず、

<sup>あく</sup>悪から<sup>すく</sup>お救いください。

<sup>くに</sup>国と<sup>ちから</sup>力と<sup>えいこう</sup>栄光は、<sup>えいえん</sup>永遠にあなたのものです アーメン



ここで司式者は立つ。

- 司式者 しゅ しゅ いつく しめ  
主よ、主の慈しみを示し
- 会衆 しゅ すく あた  
主の救いをお与えください (詩 85:7)
- 司式者 しゅ つか びと ぎ  
主の仕え人に義をまとわせ
- 会衆 しゅ せいと よろこ うた  
主の聖徒に喜び歌わせてください (詩 132:9)
- 司式者 しゅ たみ すく  
主の民を救い
- 会衆 しゅ こ しゅくふく  
主の子らを祝福してください (詩 28:9)
- 司式者 しゅ へいわ いま よ あた  
主の平和を今の世に与え
- 会衆 ち は たたか  
地の果てまで、戦いをやめさせてください (詩 46:9)
- 司式者 しゅ みち ち し  
主の道をあまねく地に知らせ
- 会衆 しゅ すく くに し  
主の救いをすべての国に知らせてください (詩 67:2)
- 司式者 しゅ きよ こころ つく  
主よ、わたしたちのうちに清い心を造り
- 会衆 せいれい ささ  
聖霊によって支えてください (詩 51:10, 12)
- 司式者 しゅ みな  
主は皆さんとともに
- 会衆 また、あなたとともに
- 司式者 いの  
祈りましょう

とく とう  
特 禱

ここで当日の特禱を用いる。祝日でない金曜日、土曜日には、当日の特禱に代えて聖金曜日(受苦日)、聖土曜日の特禱を用いてもよい。続いて次の二つの特禱を用いる。

へいあん  
平安のため

すべての聖なる望み、良い思い、正しい業のもとである神よ、この世の与え得  
ない平安をわたしたちにお与えください。わたしたちがみ 心 にすべてをゆだね、  
み 力 によりあだを恐れず、安らかに日々を過ごすことができますように、救い  
ぬし  
主イエス・キリストのいさおによってお願いいたします。アーメン

まも  
み守りのため

み守りのための祈りに代えて次の導きのための祈りを用いてもよい。  
ひかり みなもと 光の源 である主よ、この世の闇を照らし、豊かな憐れみをもってわたした  
ちを守り、今夜の危険をことごとく防いでください。独りのみ子、救い主イエ  
ス・キリストの 慈しみにによってお願いいたします。アーメン

みちび  
導きのため

天の父よ、わたしたちは主のうちに生き、動き、また存在するものです。どう  
か聖霊によって 導き、わたしたちが日々の 営みのうちに主を覚え、常にみ栄  
えを 現すことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたしま  
す。アーメン

ここで司式者はひざまずき、次の祈り、またはそのときにふさわしい祈禱、感謝（祈禱書 106 ページ以下）または嘆願（13 ページ／祈禱書 98 ページ以下）を用いるとよい。

司式者は、「黙禱しましょう」と言って、黙禱の時をおいてもよい。

たいさいせつ だいとう  
大齋節の代禱

司式者 わたしたちはこの大齋節（レント）に主の御前に祈ります。  
いかなるものをも手放す勇気が与えられ、わたしたち自身を  
主の御前にお献げすることができますように。

あなたの教会が、さらに多くの時間と賜物を主に託された宣教の御業  
のために用いることができますように。

わたしたち教会に、自分自身への執着と囚われ、思い煩いを手放す  
勇気をお与えください。

キリストの十字架を恥とせず、わたしたちが痛みや苦しみを恐れること  
なくキリスト者としての責任を担い、聖アンデレ教会、東京教区、  
聖なる公会が、キリストの福音の喜びを世に告げ知らせ、人々に仕え、  
心から神を賛美することができるようにしてください。

主は、主の民の赦しのため十字架の上で御脇より尊い血と水を流され、  
苦しみにあうことをいとわれませんでした。

主よ、沈黙のうちにわたしたちに臨み

会衆 祈りに応え、御力をお与えください。

司式者 あなたが愛されるこの世界と、そこに生きる人々がすべての戦争と  
暴力、敵意と憎しみを手放す勇気をお与えください。

わたしたち教会が、平和を作り出す器として、傷ついた人々の  
痛みの中に立ち続けることができますように。

十字架を担う主イエスの肩には、兵士たちの鞭によって深い傷が刻まれ

ました。暴力によって刻まれたその傷ついた肩は、今もこの世界の  
軍事的、政治的、経済的暴力によるすべての重荷と痛みを担ってくだ  
さっています。

主よ、沈黙のうちにわたしたちに臨み  
会衆 祈りに応え、御力をお与えください。

司式者 わたしたちと家族、友人たち、わたしたちの社会や共同体が、すべて  
の争い、無関心と対立、あらゆる傲慢とねたみを手放す勇気をお与えく  
ださい。

すべての営みが神様の愛のうちにあることを知り、正義と平和を  
実現するため、わたしたちが共に生きる知恵を身につけることができ  
ますように。

主イエスは、十字架の上に心も体も打ち砕かれ、引き裂かれました。  
復活によって完全な命をもってわたしたちと共におられる主は、わた  
したちの関わりの中に立ち、平和への道に導いてくださいます。

主よ、沈黙のうちにわたしたちに臨み  
会衆 祈りに応え、御力をお与えください。

司式者 わたしたち一人ひとりに、自分本位な生き方、自分自身のために用いる  
命と時間を手放す勇気をお与えください。  
同じ時を様々な境遇の中で生きている人々、ことに傷つき、また病の  
うちにある人、悩み災いの内にある人、孤独な人、祈りの友のない人、  
希望を見失いつつある人々のために、時間と関心と労力を用いさせ  
てください。

しゅ じゅうじか いや きず みて  
主イエスは、十字架によって癒しをもたらされ、その傷ついた御手を  
ひとびと ふ かれ い ぼしよ ひかり み  
のべて人々に触れ、彼らの生きる場所をキリストの光で満たしてください。  
います。

しゅ ちんもく のぞ  
主よ、沈黙のうちにわたしたちに臨み  
いの こた みちから あた  
会衆 祈りに応え、御力をお与えください。

し ぜつぼう おそ てばな ゆうき あた  
司式者 わたしたちに、死と絶望への恐れを手放す勇気をお与えください。  
みち ふあん う か みことば しんらい しやうがい あゆ  
未知への不安に打ち勝ち、御言葉への信頼のうちに、その生涯の歩み  
お ひとびと とも しんこう よろこ わ あ せいきよしや  
を終えた人々と共に信仰の喜びを分かち合わせてください。逝去者を  
おぼ いの  
覚えて祈ります。

しゅ じゅうじか うえ くぎう ふつかつ きず あし  
主イエスは、十字架の上に釘打たれ、復活され、その傷ついた足で  
た あ し のぞ ひとびと しべつ かな ひとびと とも  
立ち上がり、死に臨む人々、死別に悲しむ人々と共に、そしてキリスト  
きようかい とも し えいえん いのち かがや む あゆ  
の教会と共に、死から永遠の命の輝きに向けて歩んでくださいます。

しゅ ちんもく のぞ  
主よ、沈黙のうちにわたしたちに臨み  
いの こた みちから あた  
会衆 祈りに応え、御力をお与えください。  
いま よよ  
一同 今も、世々にかぎりなく アーメン

(2021年2月20日教区主教使用許可)

終わりに次のように言う。

しゅ めぐ かみ あい せいれい まじ  
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、わたしたちとともにあ  
りますように。 **アーメン** (IIコリント 13:13)

聖歌

たん がん  
嘆 願 (祈祷書 98 ページ)

嘆願は、一般の祈願と代祷とから成る。教会は、聖餐とその他の礼拝において祈りと交わりをともにするだけでなく、嘆願を用いて広く世のすべての人のために代祷をするのを常としている。日曜、水曜、金曜、昇天前祈祷日に歌いまたは唱える。その他のときに用いてもよい。

ちち かみ  
司式者 父なる神よ

あわ あた  
会衆 憐れみをお与えください

こ かみ  
司式者 子なる神よ

あわ あた  
会衆 憐れみをお与えください

せいれい かみ  
司式者 聖霊なる神よ

あわ あた  
会衆 憐れみをお与えください

せい さんい いったい かみ  
司式者 聖なる三位一体の神よ

あわ あた  
会衆 憐れみをお与えください

しゅ せんぞ つみ おも ぼつ  
司式者 主よ、わたしたちと先祖との罪を思わず、わたしたちを罰しないで  
あわ しゅ とうと ち あがな たみ  
ください。憐れみの主よ、尊い血で贖われた民を

しゅ ゆる  
会衆 主よ、お赦してください

ざいあく あくま しゅ いか えいえん ぼつ  
司式者 すべての罪悪、悪魔のわな、主の怒り、永遠の罰から

しゅ すく  
会衆 主よ、お救いください

こころ まよ こうまん きよえい ぎぜん にく うら  
司式者 心の迷い、高慢、虚栄、偽善、ねたみ、憎しみ、恨み、  
むじひ  
またすべての無慈悲から

会衆 しゅ すく  
主よ、お救いください

司式者 ふひんこう おも つみ よ にく あくま あざむ  
不品行とすべての重い罪、また世と肉と悪魔の欺きから

会衆 しゅ すく  
主よ、お救いください

司式者 ぼうふう こうずい らくらい じしん ききん えきびょう かさい  
暴風、洪水、ひでり、落雷、地震、飢饉、疫病、火災、  
ふりよ ししょう  
また不慮の死傷から

会衆 しゅ すく  
主よ、お救いください

司式者 せんそう ぼうどう ぼうりやく さつしょう ぶんれつ ふわ  
戦争、暴動、謀略、殺傷、分裂、またすべての不和から

会衆 しゅ すく  
主よ、お救いください

司式者 めいしん いたん ぶんぱ ごころ しゅ  
迷信、異端、分派、またすべて心をかたくなにし、主の  
ことば いまし かる  
み言葉と戒めを軽んずることから

会衆 しゅ すく  
主よ、お救いください

司式者 しゅ じゅにく こうたん せんれい だんじき こころ あ  
主の受肉、降誕、洗礼、断食、また試みに会われたことにより

会衆 しゅ すく  
主よ、お救いください

司式者 しゅ なや ち あせ じゅうじか くる とうと し ほうむ  
主の悩みと血の汗、十字架とその苦しみ、尊い死と葬り、  
えいこう ふっかつ しょうてん せいれい こうりん  
栄光ある復活と昇天、また聖霊の降臨により

会衆 しゅ すく  
主よ、お救いください

司式者 さいわ わざわ し のぞ さば ひ  
幸いなとき、災いのとき、死に臨むとき、また審きの日にも

会衆 しゅ すく  
主よ、お救いください

司式者 しゅ かみ つみ ねが き せい こうかい  
主なる神よ、罪あるわたしたちの願いを聞き、聖なる公会  
おさ ただ みち みちび  
を治め、正しい道に導いてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 主 教、司祭、執事の 心 を照らして、まことに主の道を悟  
らせ、その教えと 行いにより、これを宣べ伝えさせてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 主の刈り入れ場に多くの 働 き人を送ってください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 主の民を 祝 して、これを守ってください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 主を愛し、主を畏れ、忠 実に主の 戒 めに従う 心 を与え  
てください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 慎 んでみ言葉を聞き、これを 行いこれを伝え、ますます  
恵みを加えられ、聖 霊の実を結ばせてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 すべて迷っている人、欺 かれた人、心 の閉ざされている  
人を、まことの道に 導 いてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 信 仰に立つ者を強め、倒れた者を起こし、心 の弱い者を  
力 づけ、悪魔をわたしたちの足の下に打ち伏せてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 すべて公務に携 わる者の 心 を治め、み旨を行 う才能、知識を与え



てください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 ばんこく へいわ いっち あた 万国に平和と一致を与えてください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 きけん もの まも まず もの すく わざわ 危険にさらされている者を守り、貧しい者を救い、災いのうちにある者もの たすを助けてください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 さんぶ びょうにん しんしん しょうがい ひと ろうじん おさなご 産婦、病人、心身に障害のある人、老人、幼子、またりょこうしゃ まも旅行者を守ってください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 みよ ひと しいた ひと まも ささ 身寄りのない人、また虐げられている人を守り、支えて

ください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 しゅうじん ほりよ あわ 囚人と捕虜を憐れんでください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 ち さんぶつ ゆた ひと よう み 地の産物を豊かにし、すべての人の用を満たしてください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 しゅ よ さ もの えいえん こうみょう へいあん すべて主にあつて世を去つた者に、永遠の光明と平安をあた与えてください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 ひと あわ すべての人を憐れんでください

会衆 <sup>しゅ き</sup> 主よ、お聞きください

司式者 <sup>かみ こ</sup> 神の子よ

会衆 <sup>ねが き</sup> わたしたちの願いをお聞きください

司式者 <sup>よ つみ のぞ かみ こひつじ</sup> 世の罪を除く神の小羊よ

会衆 <sup>あわ あた</sup> 憐れみをお与えください

司式者 <sup>よ つみ のぞ かみ こひつじ</sup> 世の罪を除く神の小羊よ

会衆 <sup>しゅ へいあん あた</sup> 主の平安をお与えください

ここで聖餐式に移ってもよい。

朝夕の礼拝とは別に嘆願を用いるときは、ここで祈りの前の唱和と主の祈り  
(6 ページ/祈祷書 103 ページ) を歌いまたは唱える。

司式者 <sup>しゅ みな</sup> 主は皆さんとともに

会衆 **また、あなたとともに**

司式者 <sup>いの</sup> 祈りましょう

<sup>ぜんのう かみ な いの</sup> 全能の神よ、あなたは、み名によって祈るとき、それをかなえてくださると、  
<sup>こ おし ころ のぞ ねが み</sup> 子によって教えられました。どうかみ心 にかなう望みと願いを満たし、わたし  
<sup>よ しゅ みち し のち よ えいえん いのち いた</sup> たちがこの世では主の道を知り、後の世では永遠の命 に至ることができます  
<sup>しゅ な ねが</sup> ように、主イエス・キリストのみ名によってお願いいたします。アーメン

ここで適当な祈りを用いてもよい。また司式者は「黙祷しましょう」と言って  
黙祷の時をおいてもよい。

司式者 <sup>しゅ しゅ かんしゃ</sup> 主をほめたたえ、主に感謝せよ

会衆 <sup>しゅ めぐ ふか</sup> 主は恵み深く、<sup>いつく えいえん た</sup> その慈しきは永遠に絶えることがない (詩 106:1)

司式者 <sup>えいこう ちち こ せいれい</sup> 栄光は、父と子と聖霊に

会衆 <sup>はじ いま よよ かぎ</sup> 初めのように、今も、世々に限りなく アーメン

終わりに次のように言う。

司式者 <sup>しゅ めぐ かみ あい せいれい まじ</sup> 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

わたしたちとともにありますように。アーメン (IIコリント 13:13)

## 聖歌

## 大齋節第1主日（2月21日）

### 特禱

四十日、四十夜、わたしたちのためにみ子を断食させられた主よ、どうか己に勝つ力を与え、肉の思いを主のみ霊に従わせ、常にわたしたちがその導きにこたえ、ますます清くなり、主の栄光を現すことができますように、父と一体であって世々に生き支配しておられるみ子イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン

### 詩編

#### 第103編

- 1 わたしの魂よ、主をたたえ // すべてをあげて、尊いみ名をほめ歌おう
- 2 わたしの魂よ、心を尽くして主をたたえ // すべての恵みを忘れるな
- 3 神はあなたの罪を赦し // 病をいやされる
- 4 あなたの命を墓の中から贖い // 慈しみと憐れみで祝福される
- 5 あなたは生涯豊かに恵まれ // その若さは鷲のように、命は新たにされる
- 6 主は正義のみ業を行い // 虐げられている人のために審きをされる
- 7 神はその道をモーセに示し // そのみ業をイスラエルの子らに告げられた
- 8 主は恵み豊かに、憐れみ深く // 怒るに遅く、慈しみは深い
- 9 常に憤る心を鎮め // いつまでも怒りを続けられない
- 10 罪に従ってわたしたちをあしらわず // とがに従って罰を下すことはない
- 11 天が地より高いように // 神を畏れる人への慈しみは大きい
- 12 東と西が果てしなく遠いように // 神はわたしたちを罪から引き離される
- 13 父が子供を憐れむように // 主の憐れみは、神を畏れる人の上にある
- 14 主はわたしたちの姿を知り // 塵に過ぎないことを心に留められる
- 15 人の日々は草のよう // 野の花のように咲き
- 16 風が通り過ぎると跡もなく // その場所を尋ねても、だれも知らない
- 17 主の慈しみは、神を畏れる人の上にとこしえに注がれる // その正義は世々の子孫に及び
- 18 契約を守る人 // 諭しを心に留めて行う者に及ぶ
- 19 主はそのみ座を天に据えられ // その支配はすべてのものに及ぶ
- 20 神のみ使いよ、主をたたえよ // み言葉を聞き、これを行う力ある者よ、主をたたえよ
- 21 天にある者よ、主をたたえよ // み旨を行う僕たちよ、主をたたえよ
- 22 造られたものよ、神の治めるすべての所で主をたたえよ // わたしの魂よ、主をたたえよ

## 日課

### ダニエル 9:3-10

<sup>3</sup>わたしは主なる神を仰いで断食し、粗布をまとい、灰をかぶって祈りをささげ、嘆願した。<sup>4</sup>わたしは主なる神に祈り、罪を告白してこう言った。

「主よ、畏るべき偉大な神よ、主を愛しその戒めに従う者には契約を守って慈しみを施される神よ、<sup>5</sup>わたしたちは罪を犯し悪行を重ね、背き逆らって、あなたの戒めと裁きから離れ去りました。<sup>6</sup>あなたの僕である預言者たちが、御名によってわたしたちの王、指導者、父祖、そして地の民のすべてに語ったのに、それに聞き従いませんでした。<sup>7</sup>主よ、あなたは正しくいます。わたしたちユダの者、エルサレムの住民、すなわち、あなたに背いた罪のために全世界に散らされて、遠くにまた近くに住むイスラエルの民すべてが、今日のように恥を被っているのは当然なのです。<sup>8</sup>主よ、恥を被るのはわたしたちであり、その王、指導者、父祖なのです。あなたに対して罪を犯したのですから。<sup>9</sup>憐れみと赦しは主である神のもの。わたしたちは神に背きました。<sup>10</sup>あなたの僕である預言者たちを通して与えられた、律法に従って歩むようにという主なる神の声に聞き従いませんでした。

### マルコ 2:18-22

<sup>18</sup>ヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々は、断食していた。そこで、人々はイエスのところに来て言った。「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」<sup>19</sup>イエスは言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿が一緒にいるかぎり、断食はできない。<sup>20</sup>しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。

<sup>21</sup>だれも、織りたての布から布切れを取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布切れが古い服を引き裂き、破れはいつそうひどくなる。<sup>22</sup>また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。」

## 大齋節第2主日（2月28日）

### 特祷

全能の神よ、わたしたちには自らを助ける力のないことをあなたは知っておられます。どうか外は体を損なうすべての災いを防ぎ、内は魂を襲う悪念を覗いてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン

## 詩編

### 第8編

- 1 わたしたちの主、神よ、み名はあまねく世界に輝き // その栄光は天にそびえる
- 2 幼子と乳飲み子は賛美を歌う // 刃向かう者、逆らう者を鎮めるため、あなたは敵に備えて砦を築かれた
- 3 あなたの指の業の大空を仰ぎ // あなたがちりばめた月と星を眺めて思う
- 4 人とは何者か、なぜ、これにみ心を留められるのか // なぜ、人の子を顧みられるのか
- 5 あなたは人を神に近いものにし // 栄えと誉れの冠を授け
- 6 み手の業を治めさせ // すべてをその足もとに置かれた
- 7 羊も牛も、野の獣もことごとく // 空の鳥、潮路を泳ぐ魚の群れも
- 8 わたしたちの主、神よ // み名はあまねく世界に輝く

### 第84編

- 1 万軍の主よ // あなたの住まいは美しい
- 2 わたしの魂は主の庭を慕い // 心を込めてあなたの命を喜び歌う
- 3 万軍の神、わたしの王、わたしの神よ // あなたの祭壇の傍らに、雀は住みかを見つけ、燕は巣を作ってひなを育てる
- 4 幸せな人、あなたの家を住まいとし // 絶えずあなたをたたえる人
- 5 幸せな人 // あなたによって奮い立ち、巡礼を志す人
- 6 かれた谷を通るとき、彼らはそこを泉とし // 秋の雨の祝福を受ける
- 7 力から力へと強められて進み // シオンであなたを仰ぎ見る
- 8 万軍の神、主よ、わたしの祈りに心を留め // ヤコブの神よ、耳を傾けてください
- 9 神よ、わたしたちの盾よ // 油を注がれた者を顧みてください
- 10 あなたの庭で過ごす一日は、千日にもまさる // あなたに逆らう者の幕屋にとどまるより、あなたの家の門守としてください
- 11 神よ、あなたは光り輝く盾。恵みと栄えを与え // とがなく歩む者に幸せを拒まれない
- 12 神よ、万軍の主よ // あなたに寄り頼む人は幸せ

## 日課

### 創世記 41:14-45

<sup>14</sup>そこで、ファラオはヨセフを呼びにやった。ヨセフは直ちに牢屋から連れ出され、散髪をし着物を着替えてから、ファラオの前に出た。<sup>15</sup>ファラオはヨセフに言った。

「わたしは夢を見たのだが、それを解き明かす者がいない。聞くところによれば、お前は夢の話の聞いて、解き明かすことができるそうだが。」

<sup>16</sup>ヨセフはファラオに答えた。「わたしではありません。神がファラオの幸いについて告げられるのです。」

<sup>17</sup>ファラオはヨセフに話した。「夢の中で、わたしがナイル川の岸に立っていると、<sup>18</sup>突然、よく肥えて、つややかな七頭の雌牛が川から上がって来て、葦辺で草を食べ始めた。<sup>19</sup>すると、その後から、今度は貧弱で、とても醜い、やせた七頭の雌牛が上がって来た。あれほどひどいのは、エジプトでは見たことがない。<sup>20</sup>そして、そのやせた、醜い雌牛が、初めのよく肥えた七頭の雌牛を食い尽くしてしまった。<sup>21</sup>ところが、確かに腹の中に入れてのに、腹の中に入れてたことがまるで分からないほど、最初と同じように醜いままなのだ。わたしは、そこで目が覚めた。

<sup>22</sup>それからまた、夢の中でわたしは見たのだが、今度は、とてもよく実の入った七つの穂が一本の茎から出てきた。<sup>23</sup>すると、その後から、やせ細り、実が入っておらず、東風で干からびた七つの穂が生えてきた。<sup>24</sup>そして、実の入っていないその穂が、よく実った七つの穂をのみ込んでしまった。わたしは魔術師たちに話したが、その意味を告げうる者は一人もいなかった。」

<sup>25</sup>ヨセフはファラオに言った。「ファラオの夢は、どちらも同じ意味でございます。神がこれからなさろうとしていることを、ファラオにお告げになったのです。<sup>26</sup>七頭のよく育った雌牛は七年のことです。七つのよく実った穂も七年のことです。どちらの夢も同じ意味でございます。<sup>27</sup>その後から上がって来た七頭のやせた、醜い雌牛も七年のことです。また、やせて、東風で干からびた七つの穂も同じで、これらは七年の飢饉のことです。<sup>28</sup>これは、先程ファラオに申し上げましたように、神がこれからなさろうとしていることを、ファラオにお示しになったのです。<sup>29</sup>今から七年間、エジプトの国全体が大豊作が訪れます。<sup>30</sup>しかし、その後七年間、飢饉が続き、エジプトの国に豊作があったことなど、すっかり忘れられてしまうでしょう。飢饉が国を滅ぼしてしまうのです。<sup>31</sup>この国に豊作があったことは、その後続く飢饉のために全く忘れられてしまうでしょう。飢饉はそれほどひどいのです。<sup>32</sup>ファラオが夢を二度も重ねて見られたのは、神がこのことを既に決定しておられ、神が間もなく実行されようとしておられるからです。<sup>33</sup>このような次第ですから、ファラオは今すぐ、聡明で知恵のある人物をお見つけになって、エジプトの国を治めさせ、<sup>34</sup>また、国中に監督官をお立てになり、豊作の七年の間、エジプトの国の産物の五分之一を徴収なさいますように。<sup>35</sup>このようにして、これから訪れる豊年の間に食糧をできるかぎり集めさせ、町々の食糧となる穀物をファラオの管理の下に蓄え、保管させるのです。<sup>36</sup>そうすれば、その食糧がエジプトの国を襲う七年の飢饉に対する国の備蓄となり、飢饉によって国が減びることはないでしょう。」

<sup>37</sup>ファラオと家来たちは皆、ヨセフの言葉に感心した。<sup>38</sup>ファラオは家来たちに、「このように神の霊が宿っている人はほかにあるだろうか」と言い、<sup>39</sup>ヨセフの方を向いてファラオは言った。「神がそういうことをみな示されたからには、お前ほど聡明で知恵のある者は、ほかにはいないであろう。<sup>40</sup>お前をわが宮廷の責任者とする。わが国民は皆、お前の命に従うであろう。ただ王位にあるということだけで、わたしはお前の上に立つ。」

<sup>41</sup>ファラオはヨセフに向かって、「見よ、わたしは今、お前をエジプト全国の上に立てる」と言い、<sup>42</sup>印章のついた指輪を自分の指からはずしてヨセフの指にはめ、亜麻布の衣服を着せ、金の首飾りをヨセフの首にかけた。<sup>43</sup>ヨセフを王の第二の車に乗せると、人々はヨセフの前で、「アブレク（敬礼）」と叫んだ。ファラオはこうして、ヨセフをエジプト全国の上に立て、<sup>44</sup>ヨセフに言った。「わたしはファラオである。お前の許しなしには、このエジプト全国で、だれも、手足を上げてはならない。」

<sup>45</sup>ファラオは更に、ヨセフにツァフェナト・パネアという名を与え、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナトを妻として与えた。ヨセフの威光はこうして、エジプトの国にあまねく及んだ。

### マルコ 3:31-4:9

<sup>31</sup>イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。<sup>32</sup>大勢の人が、イエスの周りに座っていた。「御覧なさい。母上と兄弟姉妹がたが外であなたを捜しておられます」と知らされると、<sup>33</sup>イエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と答え、<sup>34</sup>周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。<sup>35</sup>神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」

<sup>1</sup>イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。おびたしい群衆が、そばに集まって来た。そこで、イエスは舟に乗って腰を下ろし、湖の上におられたが、群衆は皆、湖畔にいた。<sup>2</sup>イエスはたとえていろいろと教えられ、その中で次のように言われた。<sup>3</sup>「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。<sup>4</sup>蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。<sup>5</sup>ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。<sup>6</sup>しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。<sup>7</sup>ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて覆いふさいだので、実を結ばなかった。<sup>8</sup>また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」<sup>9</sup>そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。

## 大斎節第3主日 (3月7日)

### 特祷

全能の神よ、どうかあなたを呼び求める僕らの願いをみ心に留め、力あるみ手を差し延べてすべての敵を防いでください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

### 詩編

#### 第34編

- 1 わたしは常に主をたたえ // 絶えず賛美を口にする
- 2 わたしの心は主をたたえ // 貧しい人もそれを聞いて喜ぶ
- 3 心を合わせて主をあがめ // とともにみ名をたたえよう
- 4 わたしが主を求めると、神はこたえられ // すべての恐れから助けてくださった
- 5 神を仰げば人の顔は輝き // 恥を受けることはない
- 6 苦しむ者が主に叫ぶと、神は聞き // 悩みの中から救い出してくださった



- 6 神を畏れる人の周りには、主のみ使いは陣を敷き // 彼らを助け出してくださる  
7 主が恵みに満ちておられることを味わい知れ // 神に寄り頼む人は幸せ  
8 主の聖徒たちよ、主を畏れよ // 神を畏れる人には乏しいことがない  
9 おごり暮らす者は乏しくなり // 主を求める人は良いもので満たされる  
10 民よ、来てわたしに尋ねよ // 主を畏れることを教えよう  
11 命を慕い求める者 // 幸せな生涯を送ろうとする者はだれか  
12 舌を制して悪を語らず // 偽るために口を開くな  
13 悪を離れて良い業をなし // 心から平和を追い求めよ  
14 主の注がれる目は正しい人の上に // 神は彼らの叫びを聞かれる  
15 主のみ顔は悪を行う者に向けられ // 彼らの名は地から消される  
16 主は正しい人の叫びを聞き // 悩みの中から救ってくださる  
17 主は悲しみ嘆く者の近くにおられ // 失意の人を支えられる  
18 正しい人は悩みが多い // しかし主はすべての悩みから助け出される  
19 神は彼らの骨をことごとく守り // その一つさえ砕かれることはない  
20 正しい人を憎む者は罪に定められ // 悪人は悪で身を滅ぼす  
21 主は神に仕える人を贖い // 主に寄り頼む者を滅びから救われる

## 日課

### 創世記 44:1-17

<sup>1</sup>ヨセフは執事に命じた。「あの人たちの袋を、運べるかぎり多くの食糧でいっぱいにし、めいめいの銀をそれぞれの袋の口のところへ入れておけ。<sup>2</sup>それから、わたしの杯、あの銀の杯を、いちばん年下の者の袋の口に、穀物の代金の銀と一緒に入れておきなさい。」

執事はヨセフが命じたとおりにした。

<sup>3</sup>次の朝、辺りが明るくなったころ、一行は見送りを受け、ろばと共に出発した。<sup>4</sup>ところが、町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは執事に命じた。「すぐに、あの人たちを追いかけ、追いついたら彼らに言いなさい。『どうして、お前たちは悪をもって善に報いるのだ。<sup>5</sup>あの銀の杯は、わたしの主人が飲むときや占いのときに、お使いになるものではないか。よくもこんな悪いことができたものだ。』」

<sup>6</sup>執事は彼らに追いつくと、そのとおりに言った。<sup>7</sup>すると、彼らは言った。「御主人様、どうしてそのようなことをおっしゃるのですか。僕どもがそんなことをするなどは、とんでもないことです。<sup>8</sup>袋の口で見つけた銀でさえ、わたしどもはカナンの地から持ち帰って、御主人様にお返ししたではありませんか。そのわたしどもがどうして、あなたの御主君のお屋敷から銀や金を盗んだりするのでしょうか。<sup>9</sup>僕どもの中のだれからでも杯が見つければ、その者は死罪に、ほかのわたしどもも皆、御主人様の奴隷になります。」

<sup>10</sup>すると、執事は言った。「今度もお前たちが言うとおりにならよいが、だれであっても、杯が見つければ、その者はわたしの奴隷にならねばならない。ほかの者には罪は無い。」

<sup>11</sup>彼らは急いで自分の袋を地面に降ろし、めいめいで袋を開けた。<sup>12</sup>執事が年上の者から念入りに調べ始め、いちばん最後に年下の者になったとき、ベニヤミンの袋の中から杯が見つかった。<sup>13</sup>彼らは衣を引き裂き、めいめい自分のろばに荷を積むと、町へ引き返した。

<sup>14</sup>ユダと兄弟たちがヨセフの屋敷に入っていくと、ヨセフはまだそこにいた。一同は彼の前で地にひれ伏した。<sup>15</sup>「お前たちのしたこの仕業は何事か。わたしのような者は占いでることを知らないのか」とヨセフが言うと、<sup>16</sup>ユダが答えた。「御主君に何と申し開きできましよう。今更どう言えば、わたしどもの身の証しを立てることができましよう。神が僕どもの罪を暴かれたのです。この上は、わたしどもも、杯が見つかった者と共に、御主君の奴隷になります。」

<sup>17</sup>ヨセフは言った。「そんなことは全く考えていない。ただ、杯を見つけれられた者だけが、わたしの奴隷になればよい。ほかのお前たちは皆、安心して父親のもとへ帰るがよい。」

### マルコ 5:1-20

<sup>1</sup>一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。<sup>2</sup>イエスが舟から上がられるとすぐに、汚れた霊に取りつかれた人が墓場からやって来た。<sup>3</sup>この人は墓場を住まいとしており、もはやだれも、鎖を用いてさえつなぎとめておくことはできなかった。<sup>4</sup>これまでも度々足枷や鎖で縛られたが、鎖は引きちぎり足枷は碎いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。<sup>5</sup>彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた。<sup>6</sup>イエスを遠くから見ると、走り寄ってひれ伏し、<sup>7</sup>大声で叫んだ。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。後生だから、苦しめないでほしい。」<sup>8</sup>イエスが、「汚れた霊、この人から出て行け」と言われたからである。<sup>9</sup>そこで、イエスが、「名は何というのか」とお尋ねになると、「名はレギオン。大勢だから」と言った。<sup>10</sup>そして、自分たちをこの地方から追い出さないようにと、イエスにしきりに願った。<sup>11</sup>ところで、その辺りの山で豚の大群がえさをあさっていた。<sup>12</sup>汚れた霊どもはイエスに、「豚の中に送り込み、乗り移らせてくれ」と願った。<sup>13</sup>イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。<sup>14</sup>豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。人々は何が起こったのかと見に来た。<sup>15</sup>彼らはイエスのところに来ると、レギオンに取りつかれていた人が服を着、正気になって座っているのを見て、恐ろしくなった。<sup>16</sup>成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれた人の身に起こったことと豚のことを人々に語った。<sup>17</sup>そこで、人々はイエスにその地方から出て行ってもらいたいと言いだした。<sup>18</sup>イエスが舟に乗られると、悪霊に取りつかれていた人が、一緒に行きたいと願った。<sup>19</sup>イエスはそれを許さないで、こう言われた。「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。」<sup>20</sup>その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとくデカポリス地方に言い広め始めた。人々は皆驚いた。

## 大齋節第4主日（3月14日）

### 特禱

恵み深い父なる神よ、み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。どうかこの命のパンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

### 詩編

#### 第19編

- 1 天は神の栄光を語り // 大空はみ手の業を告げる
- 2 日は日に言葉を語り継ぎ // 夜は夜に知識を伝える
- 3 言葉でもなく、話でもなく // その声も聞こえないが
- 4 その響きは地を覆い、その言葉は世界の果てに及ぶ // 神は海に太陽の幕屋を据えられた
- 5 太陽は花婿のように住まいを出て // 勇士のようにその道を喜び走る
- 6 天の果てから姿を現し、その果てまで巡り行き // その熱から隠れ得るものはない
- 7 主の教えは完全で、魂を生き返らせ // 主の諭しは変わらず、心に知恵を与える
- 8 主の定めは正しく、心を喜ばせ // 主のみ旨は清く、目を開く
- 9 主の言葉は混じりけなくとこしえに続き // 主の審きは真実ですべて正しい
- 10 金よりもどんな純金よりもすばらしく // 蜜よりも、蜂の巣のしたたりよりも甘い
- 11 あなたの僕はこれに教えられ // それを守って大きな報いを受ける

#### 第46編

- 1 神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの力 // 悩むときの変わらぬ助け
- 2 たとえ地が揺らぎ、山が海に崩れ落ち // 海がどよめき、しぶきを上げ
- 3 その勢いに山々が揺れ動いても // 決して恐れることはない
- 4 川が流れ、そのせせらぎは // 神の都、いと高き方のみ住まいを喜ばす
- 5 神がおられる都は揺るがない // 神は夜明けにこれを助けられる
- 6 もろもろの民は騒ぎ立ち、国々は揺らぐ // 神が声を出されると地は溶ける
- 7 万軍の主はわたしたちとともにおられる // ヤコブの神はわたしたちの砦
- 8 主のみ業を仰ぎ見よう // 主は地に不思議なみ業を行われた
- 9 主は地の果てまでも戦いを断ち // 弓を折り、槍を砕き、盾を焼かれた

- 10 「静まれ、わたしを神と知れ // わたしはもろもろの民の手でたたえられ、あまねく世界であがめられる」
- 11 万軍の主はわたしたちとともにおられる // ヤコブの神はわたしたちの砦

## 日課

### 創世記 48:8-22

<sup>8</sup> イスラエルは、ヨセフの息子たちを見ながら、「これは誰か」と尋ねた。<sup>9</sup> ヨセフが父に、「神が、ここで授けてくださったわたしの息子です」と答えると、父は、「ここへ連れて来なさい。彼らを祝福しよう」と言った。<sup>10</sup> イスラエルの目は老齢のためかすんでよく見えなかったので、ヨセフが二人の息子を父のもとに近寄らせると、父は彼らに口づけをして抱き締めた。

<sup>11</sup> イスラエルはヨセフに言った。「お前の顔さえ見ることができようとは思わなかったのに、なんと、神はお前の子供たちをも見させてくださった。」

<sup>12</sup> ヨセフは彼らを父の膝から離し、地にひれ伏して拝した。<sup>13</sup> ヨセフは二人の息子のうち、エフライムを自分の右手でイスラエルの左手に向かわせ、マナセを自分の左手でイスラエルの右手に向かわせ、二人を近寄せた。<sup>14</sup> イスラエルは右手を伸ばして、弟であるエフライムの頭の上に置き、左手をマナセの頭の上に置いた。つまり、マナセが長男であるのに、彼は両手を交差して置いたのである。

<sup>15</sup> そして、ヨセフを祝福して言った。

「わたしの先祖アブラハムとイサクがその御前に歩んだ神よ。

わたしの生涯を今日まで導かれた牧者なる神よ。

<sup>16</sup> わたしをあらゆる苦しみから贖われた御使いよ。

どうか、この子供たちの上に祝福をお与えください。

どうか、わたしの名とわたしの先祖アブラハム、イサクの名が彼らによって覚えられますように。

どうか、彼らがこの地上に数多く増え続けますように。」

<sup>17</sup> ヨセフは、父が右手をエフライムの頭の上に置いているのを見て、不満に思い、父の手を取ってエフライムの頭からマナセの頭へ移そうとした。<sup>18</sup> ヨセフは父に言った。「父上、そうではありません。これが長男ですから、右手をこの頭の上に置いてください。」

<sup>19</sup> ところが、父はそれを拒んで言った。「いや、分かっている。わたしの子よ、わたしには分かっている。この子も一つの民となり、大きくなるであろう。しかし、弟の方が彼よりも大きくなり、その子孫は国々に満ちるものとなる。」

<sup>20</sup> その日、父は彼らを祝福して言った。

「あなたによってイスラエルは人を祝福して言うであろう。

『どうか、神があなたをエフライムとマナセのようにしてくださるように。』」

彼はこのように、エフライムをマナセの上に立てたのである。

<sup>21</sup> イスラエルはヨセフに言った。「間もなく、わたしは死ぬ。だが、神がお前たちと共にいてくださり、きっとお前たちを先祖の国に導き帰らせてくださる。<sup>22</sup> わたしは、お前に兄弟た

ちよりも多く、わたしが剣と弓をもってアモリ人の手から取った一つの分け前（シェケム）を与えることにする。」

#### マルコ 8:11-21

<sup>11</sup>ファリサイ派の人々が来て、イエスを試そうとして、天からのしるしを求め、議論をしかけた。<sup>12</sup>イエスは、心の中で深く嘆いて言われた。「どうして、今の時代の者たちはしるしを欲しがらぬのだろう。はっきり言っておく。今の時代の者たちには、決してしるしは与えられない。」<sup>13</sup>そして、彼らをそのままにして、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。

<sup>14</sup>弟子たちはパンを持って来るのを忘れ、舟の中には一つのパンしか持ち合わせていなかった。<sup>15</sup>そのとき、イエスは、「ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種によく気をつけなさい」と戒められた。<sup>16</sup>弟子たちは、これは自分たちがパンを持っていないからなのだ、と論じ合っていた。<sup>17</sup>イエスはそれに気づいて言われた。「なぜ、パンを持っていないことで議論するのか。まだ、分からないのか。悟らないのか。心がかたくなになっているのか。<sup>18</sup>目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。覚えていないのか。<sup>19</sup>わたしが五千人に五つのパンを裂いたとき、集めたパンの屑でいっぱいになった籠は、幾つあったか。」弟子たちは、「十二です」と言った。<sup>20</sup>「七つのパンを四千人に裂いたときには、集めたパンの屑でいっぱいになった籠は、幾つあったか。」「七つです」と言うと、<sup>21</sup>イエスは、「まだ悟らないのか」と言われた。

### 大斎節第5主日（3月21日）

#### 特祷

全能の神よ、み子イエス・キリストは大祭司として来られ、その血をもって至聖所に入り、ただひとたび永遠の贖いを全うされました。どうかご自身を神にささげられたキリストの血によって、わたしたちの良心を死に至る行いから清め、あなたに仕えさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

#### 詩編

#### 第145編

- 1 わたしの神、王よ、あなたをあがめ // わたしは世々にみ名をたたえる
- 2 日ごとにあなたをたたえ // 世々にみ名をほめ歌う
- 3 主は偉大、すべてを超えてたたえられる方 // その偉大さは計り知れない
- 4 今の世は次の世にあなたのみ業を語り告げ // わたしはその偉大さを宣べ伝える

- 5 人びとはあなたの栄光の輝きを告げ // わたしは不思議なみ業を思い巡らす  
6 人びとはあなたの恐るべき力を語り // わたしはその偉大さを宣傳伝える  
7 人びとにあなたの豊かな恵みを思い // 喜んであなたの正義を歌う  
8 主は恵みと憐れみに満ち // 怒るに遅く、慈しみ深い  
9 主の恵みはすべてのものに及び // 慈しみは造られたすべてのものの上にある  
10 主よ、造られたすべてのものはあなたをたたえ // 忠実な僕たちは感謝して歌う  
11 彼らはみ国の栄光を語り // 力あるみ業を告げる  
12 人の子らはあなたの力あるみ業と // み国の栄光を知るようになる  
13 あなたの国は永遠の国 // あなたの支配は世々に及ぶ  
14 主は悩みのうちにある者を支え // 倒れる者をすべて立たせてくださる  
15 すべての者の目はあなたを待ち望み // あなたは時にしたがって命の糧を恵まれる  
16 生きているすべてのものの願いを // あなたはみ手を開いて満たされる  
17 主の行われることはすべて正しく // そのみ業は慈しみに満ちている  
18 主はおられる、助けを求める人の近くに // 心から祈る人の傍らに  
19 神を畏れる人の願いを聞き入れ // その叫びを聞いて助けられる  
20 神を愛する人をすべて主は守られ // 悪い人は退けられる  
21 わたしの口は主の誉れを語り // すべての民は世々に限りなく、尊いみ名をほめたたえる

## 日課

### 出エジプト 3:16-4:12

<sup>16</sup> さあ、行って、イスラエルの長老たちを集め、言うがよい。『あなたたちの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である主がわたしに現れて、こう言われた。わたしはあなたたちを顧み、あなたたちがエジプトで受けてきた仕打ちをつぶさに見た。 <sup>17</sup> あなたたちを苦しみのエジプトから、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む乳と蜜の流れる土地へ導き上ろうと決心した』と。 <sup>18</sup> 彼らはあなたの言葉に従うであろう。あなたはイスラエルの長老たちを伴い、エジプト王のもとに行って彼に言いなさい。『ヘブライ人の神、主がわたしたちに出現されました。どうか、今、三日の道のりを荒れ野に行かせて、わたしたちの神、主に犠牲をささげさせてください。』 <sup>19</sup> しかしわたしは、強い手を用いなければ、エジプト王が行かせないことを知っている。 <sup>20</sup> わたしは自ら手を下しあらゆる驚くべき業をエジプトの中で行い、これを打つ。その後初めて、王はあなたたちを去らせるであろう。

<sup>21</sup> そのとき、わたしは、この民にエジプト人の好意を得させるようにしよう。出国に際して、あなたたちは何も持たずに出ることはない。 <sup>22</sup> 女は皆、隣近所や同居の女たちに金銀の装身具や外套を求め、それを自分の息子、娘の身に着けさせ、エジプト人からの分捕り物としなさい。」

<sup>1</sup> モーセは逆らって、「それでも彼らは、『主がお前などに現れるはずがない』と言って、信用せず、わたしの言うことを聞かないでしょう」と言うと、<sup>2</sup> 主は彼に、「あなたが手に持っているものは何か」と言われた。彼が、「杖です」と答えると、<sup>3</sup> 主は、「それを地面に投げよ」と言われた。彼が杖を地面に投げると、それが蛇になったのでモーセは飛びのいた。<sup>4</sup> 主はモーセに、「手を伸ばして、尾をつかめ」と言われた。モーセが手を伸ばしてつかむと、そ

れは手の中で杖に戻った。<sup>5</sup>「こうすれば、彼らは先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主があなたに現れたことを信じる。」<sup>6</sup>主は更に、「あなたの手をふところに入れなさい」と言われた。モーセは手をふところに入れ、それから出してみると、驚いたことには、手は重い皮膚病にかかり、雪のように白くなっていた。<sup>7</sup>主が、「手をふところに戻すがよい」と言われたので、ふところに戻し、それから出してみると、元の肌になっていた。<sup>8</sup>「たとえ、彼らがあなたを信用せず、最初のしるしが告げることが聞かないとしても、後のしるしが告げることが信じる。<sup>9</sup>しかし、この二つのしるしのどちらも信ぜず、またあなたの言うことも聞かないならば、ナイル川の水をくんできて乾いた地面にまくがよい。川からくんできた水は地面で血に変わるであろう。」

<sup>10</sup>それでもなお、モーセは主に言った。「ああ、主よ。わたしはもともと弁が立つ方ではありません。あなたが僕にお言葉をかけてくださった今でもやはりそうです。全くわたしは口が重く、舌の重い者なのです。」<sup>11</sup>主は彼に言われた。「一体、誰が人間に口を与えたのか。一体、誰が口を利けないようにし、耳を聞こえないようにし、目を見えるようにし、また見えなくするのか。主なるわたしではないか。<sup>12</sup>さあ、行くがよい。このわたしがあなたの口と共にあって、あなたが語るべきことを教えよう。」

#### マルコ 8:31-9:1

<sup>31</sup>それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。<sup>32</sup>しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。<sup>33</sup>イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」<sup>34</sup>それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。<sup>35</sup>自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。<sup>36</sup>人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。<sup>37</sup>自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。<sup>38</sup>神に背いたこの罪深い時代に、わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子もまた、父の栄光に輝いて聖なる天使たちと共に来るときに、その者を恥じる。」

<sup>1</sup>また、イエスは言われた。「はっきり言うておく。ここに一緒にいる人々の中には、神の国が力にあふれて現れるのを見るまでは、決して死なない者がいる。」